

目次	活動報告	371
	第32回青空地衣教室（千葉県市原市市原市民の森）の報告	
	／ 木下 靖浩・安齊 唯夫	371
	第32回青空地衣教室（千葉県市原市柿木台 市原市民の森）で観察された地衣類／原田 浩・木下 靖浩・坂田 歩美	372
	第32回青空地衣教室 ー市原市民の森ー に参加して	
	／ 松井 宏明	373
会員通信		374
	電柱に地衣が生える / 川名 興	374

活動報告 Reports of the JSL Activities

第32回青空地衣教室（千葉県市原市市原市民の森）の報告

Report of the 32nd Outdoor School on Lichens at Ichihara, Chiba-ken, central Japan (17 April 2010)/
by Kinoshita Y. & Anzai T.

千葉県市原市において第32回青空地衣教室が開催されましたので、報告いたします。

* * *

開催日：2010年4月17日（土）

開催場所：千葉県市原市柿木台 市原市民の森

講師：原田浩氏（千葉県立中央博物館）

参加者数：16人（講師を含む）

* * *

市原市民の森では、原田先生が所属される千葉県立中央博物館主催による地衣類の観察会は過去に何度か開催されていますが、青空地衣教室としては初めての開催になります。

前日から当日早朝にかけて、何十年ぶりかの4月の雪に見舞われ、小湊鉄道で現地に向かう間も冷たい雨が



図 1. 観察会の様子。サクラの幹に着くウメノキゴケの仲間を観察。

降り続き、どうなることかと心配しましたが、最寄り駅の月崎駅に着いたときには天気予報通りに雨もあがり、無事に開催することができました。

市原市民の森は千葉県の中央部に位置し、都心からのアクセスも良く、キャンプ場や散策路もあって、普段は里山の自然を楽しむ人が多く訪れる場所ですが、当日は朝の雨と寒さのために、青空地衣教室の参加者以外にはほとんど人影が見られませんでした。

今回の青空地衣教室でも、まずは初心者を対象に、葉状地衣として裂芽を有するウメノキゴケ、粉芽を有するマツゲゴケ、バスチュールを有するゴンゲンゴケの説明から始まり(図1)、同じく葉状のキウメノキゴケ、センシゴケ、トゲウメノキゴケや、朽ちた切り株のコアカ

ミゴケ、ダイダイゴケなどが説明されました。普段の観察会であれば、色で違いが一目瞭然のキウメノキゴケが、水分を十分に含んで緑色が強く、初心者の方にはわかりにくかったかもしれません。

午後は小川沿いの散策路に観察場所を移し、ウスイロマツゲゴケ、ナミガタウメノキゴケ、ダイダイサラゴケなどの他に、ヒノキノアオバゴケ、マルゴケなど、サンカなどの生葉上に生育している地衣類を観察しました。

寒い一日でしたが、観察中は雨に遭うこともなく、無事に観察を終えることができました。

(木下靖浩・安斉唯夫)

第 32 回青空地衣教室(千葉県市原市柿木台市原市民の森)で観察された地衣類

Lichens observed during the 32nd Outdoor School on Lichens at Ichihara (Ichihara Shimin-no-mori), Chiba-ken, central Japan (17 April 2010) / by Harada H., Kinoshita Y. & Sakata A.

時：2010年4月17日

場所：千葉県市原市柿木台 市原市民の森

観察リスト

<i>Bacidia</i> sp.	イボゴケ属
<i>Buellia</i> sp.	スミイボゴケ属
<i>Caloplaca flavorubescens</i>	ダイダイゴケ
<i>Cladonia caespiticia</i>	ドテハナゴケ
<i>Cladonia coniocraea</i>	ヤリノホゴケ
<i>Cladonia macilenta</i>	コアカミゴケ
<i>Cladonia ramulosa</i>	ヒメレンゲゴケ
<i>Cladonia subcariosa</i>	マキバハナゴケ
<i>Coenogonium luteum</i>	ダイダイサラゴケ
<i>Coenogonium subluteum</i>	ウスチャサラゴケ
<i>Cresponea</i> sp.	カシゴケ属
<i>Dibaeis soreliata</i>	コナセンニンゴケ
<i>Enterographa</i> sp.	クチナワゴケ属
<i>Fellhanera bouteillei</i>	ヒノキノアオバゴケ
<i>Flavoparmelia caperata</i>	キウメノキゴケ
Gomphillaceae sp.	ヒゲゴケ科

<i>Graphis handelii</i>	ニセモシゴケ
<i>Graphis</i> sp.	モシゴケ属
<i>Heterodermia obscurata</i>	キウラゲジゲジゴケ
<i>Heterodermia microphylla</i>	チチレウラシロゲジゲジゴケ
<i>Hypotrachyna ossealba</i>	ゴンゲンゴケ
<i>Hypotrachyna revoluta</i>	ハコネゴンゲンゴケ
<i>Lecanora</i> spp.	チャシブゴケ属
<i>Lepraria cupressicola</i>	レブラゴケ
<i>Leptogium</i> sp. nov.	ノミノアオキノリ(新種)
<i>Menegazzia terebrata</i>	センシゴケ
<i>Myelochroa hayachinensis</i>	ハヤチネウメノキゴケ
<i>Myelochroa aurulenta</i>	コナウチキウメノキゴケ
<i>Parmelinopsis minarum</i>	トゲウメノキゴケ
<i>Parmelinopsis spumosa</i>	コナヒメウメノキゴケ
<i>Parmotrema austrosinense</i>	ナミガタウメノキゴケ
<i>Parmotrema mellissii</i>	ニセマツゲゴケ
<i>Parmotrema subpallescens</i>	ウスイロマツゲゴケ
<i>Parmotrema tinctorum</i>	ウメノキゴケ
<i>Pertusaria</i> sp.	トリハダゴケ属
<i>Porina</i> sp.	マルゴケ属
<i>Pyrenula japonica</i>	サネゴケ
<i>Rimelia clavulifera</i>	マツゲゴケ
<i>Stereocaulon japonicum</i>	ヤマトキゴケ
Verrucariaceae sp.	アナイボゴケ科

(原田 浩・木下 靖浩・坂田 歩美)

第32回青空地衣教室 一市原市民の森一に参加して / 松井 宏明

My Experiences at the 32nd Outdoor School on Lichens at Ichihara, Chiba-ken, central Japan (17 April 2010) / by Matsui H.

4月も半ばを過ぎたというのに、明け方まで雪や霰が降っていた寒い日でしたが、地衣観察の熱意を燃やして防寒しました。

原田浩講師のご指導で、桜の樹を囲みます。「地衣類は初めて—という方もいらっしゃるので、…」と、まずは葉状地衣から、ウメノキゴケで裂芽、マツゲゴケで粉芽、ゴンゲンゴケでパステールの説明がありました。続いて樹状地衣のコアカミゴケ、いくつかの痂状地衣の説明と進み、あとは目に付くもの十数種類の紹介で、午前中はほとんど移動せずに終わりました。

印象に残ったのは、『校庭のコケ』のコアカミゴケの写真の切株はこれだと見せられたことです。十数年間に切株は朽ち崩れてしまっていたのですが、コアカミゴケは今も美しく生きていました。

午後はどんどん移動しながら、ウスイロマツゲゴケというレアものや、苦手のゲジゲジゴケ類などを教えてもらいました。さらにマニアックに葉上の地衣、ヒノキアオバゴケ、ウスチャサラゴケやマルゴケの仲間など小

さすぎて特徴がつかめないものが出てきました。

そして、原田講師が現在記載中というアオキノリの仲間を、まさにタイプ・ローカリティーその場所で見せてもらい、感激しました。濡れた土の崖に黒ずんで見えるカビのようなものをルーペでのぞくと、確かに全体がアオキノリのような色をしていて、1mmもない丸い子器が見えました。ノミノアオキノリと名付けられるそうですが、本当でしょうか？

観察会を終了して戻る道すがら、原田講師はしきりにウスチャサラゴケの子器を探し続けられ、ついに見つられました。「これでダイダイサラゴケの仲間ということがはっきり分かる」と見せていただいた葉上には、薄いオレンジ色の子器が5つ、かわいらしく並んでいました(図2)。

初歩から超マニアックまで楽しい観察経験をさせていただいた原田講師と、お世話いただいた安斉さん、木下さんに感謝いたします。

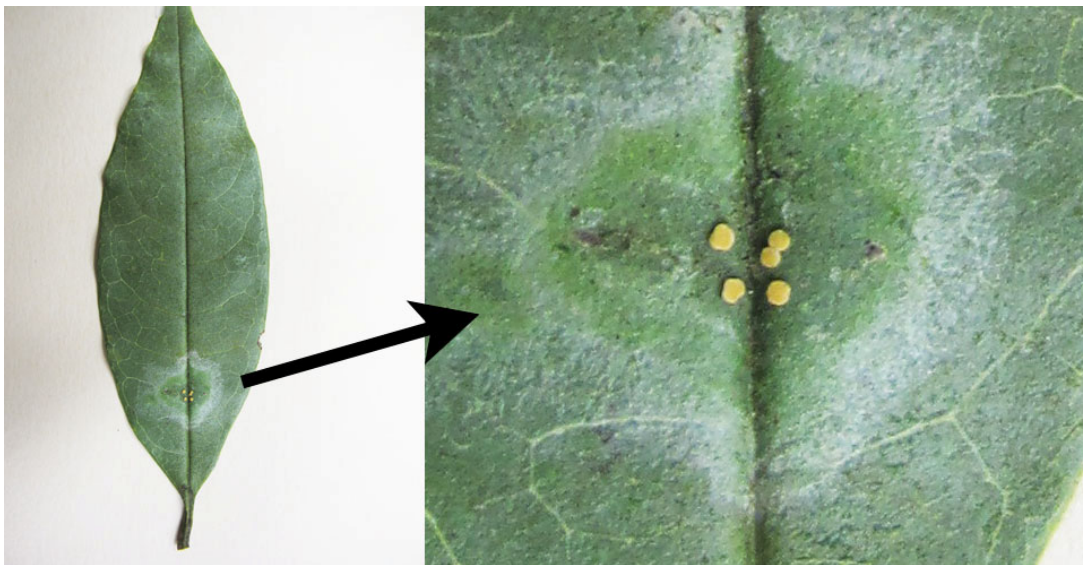


図2. やっと見つけたウスチャサラゴケ *Coenogonium subluteum*. キンモクセイの葉に着いていた。(原田浩撮影)

会員通信 From Members

電柱に地衣が生える / 川名 興 (千葉県富津市)

A concrete power pole with lichens / by Kawana T.

千葉県東金市大豆谷(まめざく)の日吉神社。その表参道にはうっそうとした杉並木が続く(図A)。胸高直径1m位のスギがあり、市の天然記念物でもある。その並木にコンクリート製の電柱があり、その電柱の上部(図B)に葉状地衣が、下部には痂状地衣が生えていた。2010年4月4日、東金市、八鶴湖(はっかくこ)の桜祭りの帰りに立ち寄った時のことであった。



●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌 80号 290ページに。

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 80, p. 290 of this publication.

- Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 101, pp. 371-374: eds. Harada H. & Kinoshita K., published by *the Japanese Society for Lichenology*, 103May 2010.

日本地衣学会ニュースレター 101号

発行日：2010年 5月 13日

編集：原田 浩・木下 薫

発行者・発行所：日本地衣学会

〒203-0021 東京都清瀬市野塩 2-522-1

明治薬科大学 生薬学教室内

©2010 日本地衣学会 (© 2010 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複製等は固くお断りいたします。